

1. 2018年度年次総会

・2018年6月2日に6月2日に京都大学本部(吉田キャンパス)で開催した。総会では理事会提出の2017年度活動総括、決算案および2018年度活動方針・予算案を審議し、決定した。総会出席者は58名であった。

・総会において、日独共同研究奨学金設置について諮り、本年度からの募金開始と奨学金実施要綱を決定した。募金実施に係る「日独共同研究奨学金」管理規定及び「財政安定化基金」管理規定は、その後、第1回常務理事会において決定された。

・名誉会員にDr.von Werthern駐日ドイツ大使を推薦し、総会により決議された。称号授与式の後、同大使による「Wozu Botschafter?」と題する講演会が開催された。引き続きミニ・コンサートを催した後、懇親会が、同大使臨席のもと、開催され、75名の参加があった。

・総会報告版として「日本フンボルト協会ニューズレター」(Nr. 2018年8月)を刊行した。

・

2. 協会運営のための諸会議について

・年次総会に際して、常務理事会および理事会を開催し、会員総会に提出する2017年度活動報告、決算案および2018年度活動方針・予算案が審議され承認された。

・常務理事会を、8月24日(東京・ドイツ文化会館内 DAAD 事務所会議室)、12月22日(京都・同志社大学寒梅館)および2019年3月24日(東京・ドイツ文化会館内 DAAD 事務所会議室)に開催し、活動の具体化について審議した。

3. ドイツ研究留学説明会の開催

総会と同日の6月2日に京都大学・吉田キャンパスで、DAAD 東京所長 Dr.Mahnke 氏の参加を得て、2018年度のドイツ研究留学説明会を開催した。全体説明会ののち、分野ごとの6分科会でより詳細な説明と意見交換が行われた。若手研究者約80名が参加した。

4. 2019年度総会について

2019年6月2日(日)、ドイツ研究留学説明会と併せて、いずれも東京・ドイツ文化会館で開催することになった。

5. 支部活動について

支部長交代も複数あって、今後の支部活動の一層の活発化が期待される。各支部の活動については、協会ホーム・ページならびにニューズレターを参照されたい。

6. 日独共同研究奨学金の件

2018年9月から募金活動を開始し、日独共同研究基金管理規程及び関連内規を整備し、実施委員会(委員長・伊藤副理事長)も設置して応募を募ったところ、11件の応募があった。なお、募金及び実施に生じる様々な問題については理事長・副理事長(廣渡前理事長も参加)によるワーキンググループにおいて検討することとした。なお、制度の実施全般については常務理事会に一任された。

7. 協会の財政について

・協会財政の逼迫に備えて、日独共同研究奨学金のための募金に財政安定化のための募金をも合わせて実施することとし、第1回常務理事会において「財政安定化基金」管理規定も承認されたので、会員からの募金を開始した。

・フンボルト財団から、総会開催の支援金に加えて、2018年度も、ドイツ研究留学説明会開催について支援金を申請し認められた。

(以上)